





# 自転車天国研究会

自転車を活用して いちかわの街づくりに役立てたい

# メンバー











光井スイスイ浄司

中川スイスイ周史

湊スイスイ誠也

鈴木スイスイ雄高 くずはらスイ~トまり











三浦スイスイ栄治 Ninja服部スイスイ昇 谷口スイスイ範之 大平スイスイ秀彦

田中スポーティ正保

# 水と緑の街いちかわを楽しむ **自転車ツアー** からやっています















# 市川は

# 自転車が多く利用されている都市

●自転車分担率 千葉県1位

表 1 千葉県・近隣市の自転車の交通機関分担率(平成 10年)

	市川市	千葉市	船橋市	松戸市	柏市	浦安市	習志野市	鎌ヶ谷市	千葉県
分担率%	18.1	10.6	12.9	14.1	12.9	12.7	12.7	14.3	11.1

●自転車の保有 10人に7~8台

対象人口40万人(6~79歳)に対し自転車保有台数31万台(平成16年)

# 自転車は

- •健康にいい
- ●街に出やすい
- ●CO2排出しない

# 脱炭素

# 考え方

自動車の利用を 自転車に置きかえることで CO2排出量削減

## CO2排出量

自転車 21g/km\* 電動自転車 22g/km 自家用車 279g/km バス 101g/km

\*CO2排出量21gの内訳 自転車の生産・メンテ 5g 自転車をこぐカロリー消費とその食物 16g



European Cyclists' Federation (ECF) ヨーロッパサイクリスト連盟

#### 自転車で脱炭素

# 欧州の例

- 欧州連合(EU)は2030年までにCO2 排出量を1990年の水準から55%下げ、 2050年までにカーボンニュートラル を達成することを表明
- EUでは人口が集中する都市部での対策 が重要とし自転車の利用を推進
- ●自転車都市世界一を目指すコペンハー ゲンの例を紹介

#### ユーロヴェロ (EuroVelo)

全長約90,000キロ、現在17のルートで構成され ヨーロッパ全土を網羅したサイクリング・ロード



# コペンハーゲン

Quality of Life, Green Technologyへの投資 によるイノベーション、雇用創出のために

## **CLIMATE PLAN CPH2025**

2025までにカーボンニュートラル達成



## CO2排出量削減

## 削減目標

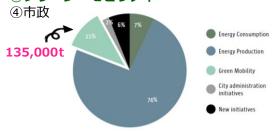
**CPH** (66万人) ~2025年

**市川**(50万人)~2030年 144万t

120万t

## 削減分野

- ①エネルギー生産
- ②エネルギー消費
- ③グリーン・モビリティ

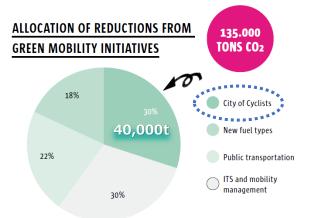


## コペンハーゲンの

# グリーンモビリティ

#### 主要目標 2025 年

- ▶移動の75%を徒歩・自転車・公共交通機関で
- ▶通勤や通学の移動の50%は自転車で
- ▶2009年と比較して公共交通機関利用者 は20%増に
- ▶公共交通機関はカーボン ニュートラルに
- ▶軽自動車の20~30%は 電気・水素・バイ オガス・バイオエタノールなどの新燃料に
- ▶大型自動車の30~40%は新燃料で走行



## コペンハーゲンの

# 自転車政策

#### 発想転換

## 市街地の移動手段の主役は自転車>車

- →自転車が最も速くて快適で便利な移動手段に
- ●市街地の車抑制

交差路の自転車優先・片側車線潰し自転車路等

●包括的な自転車走行インフラ整備

自転車スーパーハイウェイ (都市と地方を結ぶ) 45ルート・746 kmが完成すればCO2排出量は年間1500トン 削減できる (2045年目標)

スネイク(自転車専用の橋)

グリーンウェイブ (信号システム)

ラッシュ時に時速20キロで走れば赤信号で止まらず走れる

都心に大規模駐輪場

長距離交通機関と自転車走行の連結

列車電車・メトロ・バスへの自転車持ち込み可

#### スネイク



# では市川で 自転車×脱炭素

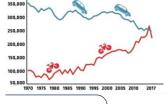
CO2の 排出量削減

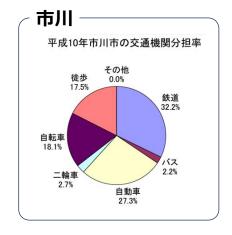
# 市川の交通手段

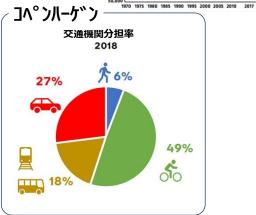
- ▶コペンハーゲンは長い年月をかけてやっと\*低炭素交通率 **73**% に
- ▶市川では、既に\*低炭素交通率 70%

\*低炭素交通=徒歩+自転車+鉄道+バス

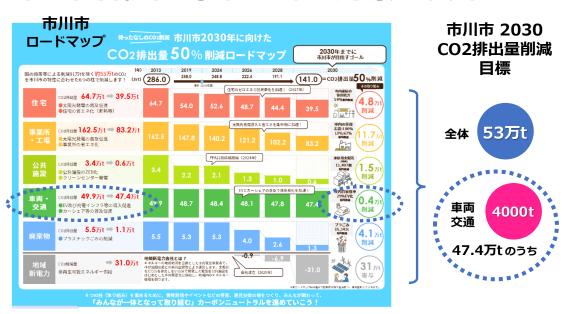
→市川では自転車利用推進による 大きなCO2削減は望めなさそう







# 市川市 自転車によるCO2削減を考えてみる



# 自転車で CO2削減 試算 1



# 削減目標を

6,000t

にして

市川の車両交通部門の 削減目標を1万tに増やす

6000t÷258g(279g-21g)

自動車を自転車に 変える距離

23,255,000km

1日当り

自動車を自転車に (23,255,000km÷4km\*\*)÷365日

変える人数 15,900人/1日当り

\*\*国土交通省によれば、自動車での移動はその8割が一人で、 移動距離の4割が5km以内とされている

# 自転車で CO2削減 試算 2

東京都

市川市 利用している人(8割)の 登録台数 平日・平均利用回数/週

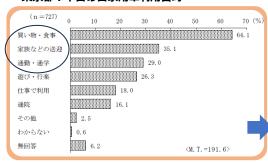
国土交通省 移動距離/回

自家用車



13万台

東京都:平日の自家用車利用目的



市川市自家用車 年間移動距離

×4km×365/5日 7,652万km

CO2削減量

自動車→自転車 変える人2割 とする

7,652万km×20%×262g

13万台×80%×2.52回

4,000t



CO2の 吸 収





# 東京湾の宝石 いちかわ 三番瀬・里海



## ●東京湾の大循環

東京湾の流域人口は3000万人と言われ森の営み・ 人の営みは川を通って海に流れ、海でとれた魚は人 がいただく

#### 東京湾に残る最後の里海

その東京湾、コンクリートの護岸が続く中、唯一残された里海がある

#### ●それが 三番瀬・市川漁港・野鳥の楽園

そこには、自然の営み、漁業の営み、そして住む人 ととの触れ合いが調和した里海・ブルーカーボンの 世界が今でも広がる

→環境を守る東京湾規模のアクトで先駆けるチャンス有り

以上のことを踏まえ、行徳南部で環境に優しい街づくりを考えてみる

# 行徳南部

自転車に乗って~ カーホ、ンニュートラル・Quality of Life・イノヘ、ーション

# 地理的条件



## インフラ整備し易い

- ●平地に新たに住宅地
- ●道路配置はメシュ状
- ●街区の道路は比較的幅 が広く車が少ない

## 住宅地の南部に

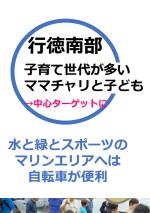
市民が憩える水・緑・ スポーツエリアがある

## 行くには自転車が便利

自転車で行こうとしても、家を出て目的地まで一か所でも車が危険でストレスがかかる場所があると、人は無意識のうちに自転車ではなく車に戻ってしまう。このようなことから、街に走り易い自転車路体系をつくるには、街をエリア別にグリッドに切り、グリッド毎に走り易い自転車路を完結させて行く必要がある。メッシュ状に道路が配置されているとそれがやり易い。

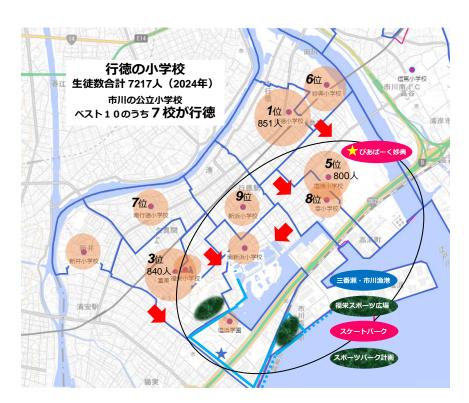


# 社会的側面





三番瀬まつり



# では、どんな街に

## 自転車で街づくり 参考事例

## アイントフォーヘン (オランダ)

## 自転車都市としてブランディング

## ●象徴として自転車用ラウンドアバウトを

1990 年代初頭、大手電機メーカーがアイントホーフェンから 撤退すると決定し、この都市は存亡の危機に陥った。

そのとき市は産業優先から方向転換し、スタートアップ企業を 誘致してヨーロッパのシリコンバレーとして復活させようとした。

市は、テクノロジー、デザイン、知識の都市としてブランドを 再構築し始めた。自動車の街といった古い考え方を捨て、自転車 にそのプロセスの中心的な役割を負わせ、アイントホーフェンを 世界的に有名な自転車都市として売り込むことにした。

まずは市の中心広場を、 1500台が駐輪できる象徴的デザインの地下自転車駐車場に変えた。

そして世界的に有名な吊り下げ構造の自転車ラウンドアバウト を建設し、世界的な注目を集めた。





# 行徳南部では



# 自転車 の活用

街のかたちが変わるだ けでなく、プロセスも 街づくりにつながる

#### 長期的観点にたった自転車路の整備が必要

目指すは 街は車より自転車の方が便利

優先順位 まずは育てママのママチャリと子どもの自転車利用を上位に

特に注意 南部では産業や流通業のトラックが多いので安全対策

合意形成 どこから始めるか

例えば「行徳小学校からぴあぱーく妙典に向かう道路」から

- ●子どものために自転車で走りやすくと地域で協力する機運が生まれる
- ●街が自転車で走り易くなると
  - \*お出かけが増え会話が増える
- \*南部に行く機会も増えカーボンニュートラルに親しむようになる
- \* 五感を感じながら走る自転車、街はほど良くつながる
- \*交通システムを市街地の交通は自転車を中心にと頭を切り替えてみると、将来(人まわりのモビリティの変革)に対するイノベーションも起こり易い
- \*自分の街に誇りが持てるようになる

#### 『いちかわサザンコースト』のシンボルとなる サイクリングロード

## 仮称三番瀬マリンロード

#### 現在は

宮内庁鴨場から塩浜三番瀬公園までを 三番瀬マリンロードと呼び、市川北部の 人にも知ってもらおうと自転車ツアーを 実施しています。

破線の部分の道が走れるようになると、 さらに素晴らしいサイクリングロードに なるでしょう。

## 将来は

他のどこにもないサイクリングロード になればいいなと思います。

特別な里海を走る三番瀬マリンロード、例えば、野鳥の楽園の上に自転車で走る橋『Pece Bridge』を架ける。注目を集めるのでは。



# 自転車路の整備 どこから始めたらいいかの例



来春、ぴあぱーく妙典内に こどもを中心に人々が交流 できる地域コミュニティ拠 点ができる

利用は子どもや親子が多くなると考えられ、 ここに行くには自転車が最も便利そう

行徳小学校→びあぱーく妙典に向かう道路 そのときメインとなるアクセス路は、行徳 小学校から東西線妙典駅を通りぴあぱーく 妙典に向かう道路(マリンロード)と考えられる

ならば、その道路が自転車でより安全に走り易くなるように考えてみたい



## 行徳小学校からぴあぱーく妙典に向かう道路で考えてみる

自転車走行は、自転車レーンが引かれていても路上駐車を回避するときが危険

現在の道路(写真右)には幅員に比較的余裕があるので、歩道と 植栽の部分使って、写真左のように路駐スペースを確保すれば、 安全でなめらかな自転車レーンになるのではないでしょうか





# 資料





Webサイト からダウンロードして ご覧いただけます

https://www.tentensuisui.com/







●CO2排出量に関する資料 European Cyclists' Federation (ECF) ヨーロッパサイクリスト連盟

https://ecf.com/files/wpcontent/uploads/ECF\_BROCHURE\_EN\_pl anche.pdf



CPH2025City of Copenhagen

https://kk.sites.itera.dk/apps/kk\_pub2/pdf/ 931\_e0pg1k808g.pdf

